

大学院工学研究科 機械工学専攻、建築学専攻に加えて 博士課程(後期)電気工学専攻設置



発行所
日本工業大学
広報課
埼玉県南埼玉郡宮代町
郵便番号 345
電話 0480(34)4111

新入生 特集

昨春秋より準備が進められてきた大学院工学研究科博士課程(後期)電気工学専攻の設置が、文部省との数度にわたる協議の結果、三月十七日をもって承認された。今回の博士課程(後期)電気工学専攻の設置により、年来よりの懸案であった機械・電気・建築の三専攻すべてに工学研究科修士課程および博士課程(後期)が設置され、本学研究科は完成をみたこととなる。なお、本専攻の開設時は四月一日、定員は二名である。四部門に分けられている研究分野の概要および担当教員は、以下の通り。

電気機器学

研究部門

本部門では、電気機器および関連設備における動的機構に対するエネルギーと情報の伝送を扱い、電気機械エネルギー変換の基礎的分野に主眼を置く。これらは古くから、実用に供されながらも理論的解明が遅れている問題を多く含み、また学際的、境界領域的でもある。本部門ではそれらに関する研究を進め、それによって、エネルギーの効率的利用、信頼性の向上および安全性の確保などへとテーマの展開をはかる。

電力工学

研究部門

本部門では電気エネルギーの効率的利用のための超高压送電に関する諸現象に関する諸問題を扱う外、送電系統と機器間の相互作用および送電系統の安全性を研究する。放電現象の基礎過程については、条件により未知の領域が広い。機器における種々の放電を伴う過程も同様であり、理論的または実験的アプローチにより研究を行う必要があるため、この方面についても力点を置いている。また、系

電子工学

研究部門

本部門では、各種デバイスの可能性の追求、適用分野の開拓と評価、またそれらを用いた電子回路についても扱う。新素材も含め電子物性に関する研究分野は多岐にわたるが、新しい思想にもとづくデバイス機能の実現や、その周辺技術の進歩を引き出すことを目的とする。

電子情報工学

研究部門

本部門では、情報の処理および通信回路等の情報伝達手段のハードウェアおよびソフトウェアについての研究を扱う。現在目覚ましい進展を呈している画像工学の基礎的研究にも進展を期している。また、情報システムとしての視点を変えて、科学、技術の対象を拡大し、従来の還元的方法論では十分に扱えない、流動的、異質的、不確定的なものを扱うための新しい理論、システム化技術、情報処理技術の研究も行う。

<研究分野および担当教員>

研究分野	担当教員
電気工学特殊研究	各 考 究 担 当 教 員
電気機器学考究	教授 工博 八 田 達 教授 工博 高 橋 篤 夫
電力工学考究	教授 工博 高 橋 琢 二 教授 工博 宮 地 邦 夫 教授 工博 原 田 達 哉
電子工学考究	教授 工博 廣 瀬 治 男 教授 工博 石 田 之 則
電子情報工学考究	教授 工博 渡 部 叡 教授 工博 轡 田 昇

4月1日より 新軽食・喫茶室オープン

日本工業大学サービスセンタールームは四月一日より食堂横の談話室内に軽食・喫茶室を開店した。この談話室は後援会ならびに学校側の資金的援助により大幅に改装され、これまでにない新たなサービスを学生諸君に提供できるようにしたものである。

営業日(日曜・祝祭日は休み)・営業時間・メニュー等は今後とも種々検討を図って行く予定であるが、取りあえず通常時は午前八時三十分から午後七時(コンパ等の予約に限り午後八時三十分まで)までの営業とし、メニューには軽食・飲物のほか、朝の時間帯(午前八時三十分から午前十一時)にはモーニングセット、また昼食時(午前十一時から午後二時)には、日替わりセットメニューを用意している。

学生諸君は、この新軽食、



喫茶室を憩いの場として積極的に利用・活用してほしい。また、名称の募集も計画しているのだ、その際には協力をお願いしたい。

スタッフのみなさん

- 昭和三十六年度 高額研究装置 教育装置等導入
- 昭和六十三年度 昭和三十六年度学内特別研究設備費および文部省による私立学校施設整備補助金により購入の高額設備はすべて決定し、すでに各研究室・実験棟等に導入されている。以下に購入装置一覧をあげるとともに、二装置については三面で紹介する。
- 〔学内特別研究設備関係〕
 - 液体窒素供給装置(材料試験研究センター)
 - 硬質薄膜作成装置(E27棟)
 - 電子線表面形態解析装置(機械工作センター)
 - 表面粗さ・半径形状エライ測定システム(E6棟)
 - 精密加工圧力測定システム(E6棟)
 - ダイヤモンド合成における分析と評価システム(E30棟)
 - 超音波発生装置(E10棟)
- ラム形万能フライス盤(E11棟)
- 私立学校施設整備補助金関係
- 研究装置
 - 高温超伝導体薄膜研究装置(E21棟)
 - 光電画像素子評価装置(E27棟)
 - 情報処理教育支援システム(情報技術センター)
 - (一)内は設置場所

第二十三回 フレッシュマン八九一名

去る四月四日、本学体育館において、平成元年度の入学式が挙行された。

今年の工学部の入学者は機械工学科二六六名、電気電子工学科二七三名、建築学科二四二名、システム工学科一四六名の計八九一名である。この中には今年初めて実施された、A・B二方式の選択受験による入学者一四二名が含まれている。

また、大学院工学研究科は修士課程機械工学専攻五名、電気工学専攻一五名、建築学専攻五名で、博士課程(後期)の機械工学専攻二名、電気工学専攻二名の入学者を合わせて計二九名となった。



平成元年度 特別奨学生8人の紹介

大 隅 真 一
(県立川崎工業)

大 木 英 樹
(下館工業)

大 谷 博
(三郷工業技術)

木 下 一 英
(飯田工業)

▽電気電子工学科

前 田 総 子
(高知工業)

森 口 須美男
(尼崎工業)

石 川 誠 一
(西野田工業定時制)

千 田 由 則
(東京工業)

▽建築学科

以上 8名

新入生へのメッセージ

図書館で知的 アドベンチャーを

図書館長 竹内 淳彦



工学を中心に多様な視聴覚教材が多く整備されており、復習や予習に活用することができ、

いま、わが国をめぐる環境は大きく変化している。国際化、情報化、技術革新のうねりのなかにあるといってもよい。このようななかで、われわれは、日進月歩の技術を吸収するだけでなく、世界の動きを正しくキャッチするとともに、世界の人々の、そして

新入生諸君、入学おめでとう。諸君がいまから始めようとしている大学生活において、もっとも重要な役割を果すのが図書館である。どこの国でも図書館は大学そのものであり、図書館の利用権を失うことは、大学生としての身分を失うことを意味するのが普通である。

図書館はさまざまな知識が一杯の宝の山であり、いくら掘っても尽きることはない。また、図書館は汲めど尽きせぬ知識の井戸である。最近、関連する東京周辺の理工系大学との話し合いがまとまり、各大学の図書館の相互利用が可能になった。宝の山は相互に連り続けている。また、日本科学技術情報センター、ダイアログ社、日本特許情報機構、それに、文部省学術情報センターなど世界最先端のデータベースの検索が可能になり、その利用件数も年々増加している。ただ、どんな立派な宝の山の前に立っても、自らの努力で掘らなければ宝は手に入らないし、井戸を眺めていても、自ら水を汲み上げない限り喉はうるおせない。すなわち、自ら知識や情報を得ようとする自助努力が不可欠である。図書館には語学、

教養課程をいかに、 なぜ学ぶか

教養科主任教授 矢島 幸雄



教養課程の教育は、人間形成と教養を身につけることを目標としている。教養課程には、人文科学、社会科学、自然科学があり、さらに外国語と保健体育が含まれている。これらの基礎教育を重視し、基礎事項をしっかり学習することが、学問の基盤を確立させることであり、それらの応用によって新しい科学や技術が理解でき、こうして創造力が養われる。各科目の講義は、集中力を持って聞くこと。さらに自ら

進んで各分野の本を読むことで知識が増える。講義や本で疑問の点は、先生に質問し、疑いを払うことである。なぜ、どうしてという疑問から知的好奇心を呼びさまし、それを追究し、解明することで学問への興味が出て、正しい知識が得られる。勉強して身につけたものは簡単に失われず、その人の一生の財産となるのである。また人前で自分の考えを話すことも必要である。自分の意見を正しく人に伝えることも訓練により上達するものである。とにかく一芸に秀でることが人生の勝利者になる一条件である。人文科学、社会科学は、人間として、社会人としての視野を広め、高度の教養ある人として、文化的で豊かな生活

新入生諸君へ

＝学生課からのお願いと注意＝

掲示を見る習慣を！

大学では、学生に対する指示・連絡はすべて掲示によって行っている。掲示板は、大学と諸君を結ぶ重要な伝達手段であり、後日「見なかった」という理由で異議を申し出ても認められない。このような不利益を招かないように、登下校の際には必ず掲示を見る習慣をつけよう。

うまい話に用心！

諸君にはオリエンテーションや学生自治会から配布される新入生歓迎パンフレットで注意を呼びかけるが、女性からの電話やダイレクトメール、又は下宿先への訪問等により、あたかも大学が推薦しているかのような巧言を用い、高価なカセットや書籍等の販売が行われることがある。又、路上で通りすがりの人から声をかけられ「会社の整理品で格安に売るから」と粗悪なスーツ等を買わされた、という例

電話での問い合わせはNO！

大学では電話での身上(住所、成績等)に関する問い合わせや呼び出し・連絡等には一切応じられない。これは、

訪問販売や学生ローン等の不審な照会に軽々しく応じることなく、諸君のプライバシーを守るためである。従って、父兄・友人等親しい人達には、あらかじめ諸君の連絡先を知らせておくこと。

アルバイトは必要最小限度に！

アルバイトは第二義的なものとし、学業と両立するよう必要最小限度にとどめ、開講期間中を避け長期休暇中に行うようにしよう。

盗難に注意！

残念なことであるが、学内において時々盗難が発生する。諸君は、貴重品の取扱いは充分留意し、特に現金は必要以上に持参せず、高価な物品は学内に置かないようにすること。又、ロッカーの鍵は堅牢な物を使用し、貴重品は入らないで体育の授業時は、先に預けるようにすること。

車両の校内乗り入れ・違法駐車(駐輪)厳禁！

本学では、学生車両の構内(所定の置場以外)への乗り入れを禁止している。又、所定の置場があるにもかかわらず、東門、南門、天神門、北門前や路上に駐車する者がいるが、各門前は緊急車両(救急車、消防車)の通行門でもあり、歩行者や近隣住民の邪魔になっている。現に、違法駐車車両が原因による大事故も発生している。

車両破損には責任を持てぬ！

車両に傷を付けられた、ミラーやプレート、なかにはタイヤを盗まれた等の苦情を耳にするが、大学はたとえ所定の場所に置いてあっても、車両破損・事故等に対して、一切の責任を負わない。駐車場が狭い、遠い、満車で置けない、いたずらされた等、不満のある者は乗って来ないことである。

きれいな環境みんなの力で！

学内にくずかごや灰皿が設置されているにもかかわらず、廊下、教室、構内道路などにタバコの吸い殻や紙コップ、空き缶等の散乱が目につく。又、通学路沿いの住民からも、同じくタバコの吸い殻や紙コップ、空き缶等が道路や植込み、煙に捨てられて困っている、という苦情が寄せられている。一人一人のちょっとした心遣いで、清潔できれいな環境やキャンパスが作れるはず。タバコの吸い殻や紙コップ、空き缶等の投げ捨ては絶対に止めよう。

みんなで築こう日本一の工業大学を！

諸君は、緑あふる本学の一員となったわけである。しかも、日本工業大学の青春を今スタートさせようとしている。よく「容易に手に入るものには貴重なものは少なく、入手困難なものは価値が高い」と言われているが、諸君にも是非、大学生活における目標は大きく持って、本気で学問に、課外活動に青春の血を燃やし、社会に充分貢献出来る人間になつてほしい。そして、学生諸君、後援会、同窓会、大学とが一体となつて、社会に親まれ、愛され、頼りにされる大学、日本一の工業大学を創り上げていくのではない。

命を失っている。ほとんどが車両を運転しての事故であつた。無念この上ないことである。又、本学学生の関与する交通事故・違反の数は、杉戸警察署管内でNo.1という誠に遺憾な統計も出されている。運転する諸君は、他人事ではない、明日は我身と、ルールを守り、安全運転を心がけてほしい。

車両通学の自粛を！

本学には駐車場があるが、決して諸君の車両(自動車やオートバイ等)による通学を勧めているわけではない。交通事故・違反の激増及び限られた駐車スペースから、むしろ自粛を要望する。又、諸君の母校がこれから大きく発展していくためには、まだまだ施設の拡充や建物の増設が必要であり、今後駐車場がせびめられていくことは必至である。そこで、諸君には今から車両での通学を自粛するよう、強く勧告する。

車両の校内乗り入れ・違法駐車(駐輪)厳禁！

本学では、学生車両の構内(所定の置場以外)への乗り入れを禁止している。又、所定の置場があるにもかかわらず、東門、南門、天神門、北門前や路上に駐車する者がいるが、各門前は緊急車両(救急車、消防車)の通行門でもあり、歩行者や近隣住民の邪魔になっている。現に、違法駐車車両が原因による大事故も発生している。

車両破損には責任を持てぬ！

車両に傷を付けられた、ミラーやプレート、なかにはタイヤを盗まれた等の苦情を耳にするが、大学はたとえ所定の場所に置いてあっても、車両破損・事故等に対して、一切の責任を負わない。駐車場が狭い、遠い、満車で置けない、いたずらされた等、不満のある者は乗って来ないことである。

きれいな環境みんなの力で！

学内にくずかごや灰皿が設置されているにもかかわらず、廊下、教室、構内道路などにタバコの吸い殻や紙コップ、空き缶等の散乱が目につく。又、通学路沿いの住民からも、同じくタバコの吸い殻や紙コップ、空き缶等が道路や植込み、煙に捨てられて困っている、という苦情が寄せられている。一人一人のちょっとした心遣いで、清潔できれいな環境やキャンパスが作れるはず。タバコの吸い殻や紙コップ、空き缶等の投げ捨ては絶対に止めよう。

みんなで築こう日本一の工業大学を！

諸君は、緑あふる本学の一員となったわけである。しかも、日本工業大学の青春を今スタートさせようとしている。よく「容易に手に入るものには貴重なものは少なく、入手困難なものは価値が高い」と言われているが、諸君にも是非、大学生活における目標は大きく持って、本気で学問に、課外活動に青春の血を燃やし、社会に充分貢献出来る人間になつてほしい。そして、学生諸君、後援会、同窓会、大学とが一体となつて、社会に親まれ、愛され、頼りにされる大学、日本一の工業大学を創り上げていくのではない。

万一事が発生した場合や、学習上で困ったことがある場合には、早めに学生課か教務課に相談のこと。

藤岡通夫元学長逝去

本学の元学長で名誉教授の藤岡通夫先生が昭和六十六年十一月十九日に永眠されました。八十歳でした。ここに謹んで哀悼の意を表します。

藤岡先生のお姿を最後に拝見したのは、日本工業大学通信第五十号にもありますように、先生が亡くなるまで情熱をそいで描かれた絵と著書からなる作品展を、十月二十三日から十一月十二日の二十日間にあつて本学図書館ギャラリーで開催した際でした。

開催日当日の先生は大変お元気で、冗談などを言い、会場は笑いに包まれていたのを思い出します。あの日からいく日もなく、われわれは先生の訃報に接することとなりました。ここに先生を偲んで、本学教授の渡辺勝彦先生に、建築史という学問の中での藤岡先生のお姿を書いていただきました。なお、本学発行の「青塔」第十五号には吉岡丹教授をはじめとする追悼が掲載されています。併せて一読下さい。



藤岡通夫先生追悼

建築史における先生の業績

建築学科教授 渡辺 勝彦

先生は、最後まで学徒であられました。晩年は「毎日が日曜日」と、午前中は絵筆を、午後は万年筆をとられ、健筆をふるわれました。昨秋、大学での作品展のため打合せに伺ったときには、油彩画とともに『書院Ⅰ・Ⅱ（創元社昭和四四年）』の改稿に打込んでおられました。その姿勢には頭が下がります。

振返って、戦前からの研究を通観させていたと、原を併せて、天守の発展過程

を体系化されました。

また、戦後もなく著された『城と城下町』（昭和二十七年創元社、増補改訂版 中央公論美術出版 昭和六三年）

では、城郭と城下町を同時に扱い、はじめて広義の、都市としての城郭をその視野にとらえて戦後の都市史研究の先駆となりました。

戦後は、城郭と関係の深い書院造を中心とした住宅建築を対象とされました。京都御所の研究では、昭和二十六年から宮内庁で御所関係の資料整理にあたり、大きな成果を挙げられました。『京都御所』（彰国社 昭和三十一年、新訂版 中央公論美術出版 昭和六二年）は、これをまとめたものです。

週日は公務に忙殺され、執筆はほとんど日曜日であったとお聞きしました。この研究で、昭和三十一年度日本建築学会賞を受けておられます。

書院造については、南禅寺大方丈・西本願寺対面所など重要な遺構の成立過程を研究されて新しい見解を示されました。また、京都島原の角屋、三溪園の臨春閣、桂離宮の御殿群などの、いわゆる数寄屋風の住宅建築についてもその成立を解き明かされています。

以上の研究の主要な論文は、東京工業大学を定年退官する際の『近世建築史論集』中央公論美術出版 昭和四四年）にまとめられています。

次に東洋建築史についてですが、この分野も戦前にすでに研究を開始されています。タイ・カンボジアに出かけられて民家・仏寺などを調査され、『アンコール・ワット』彰



図書館長室での先生御夫妻

国社 昭和一八年）などの論考を発表されています。この研究分野の開拓者としても活躍でした。戦後は、ネパール王国の建築に深い関心を寄せられ、東洋建築史上への位置づけと、保存に取り組みされました。幸い科研費を得、また本学の援助もあって調査を実施されました。私も加えて下さったのは、誠にありがたかったです。

日本工業大学を定年で退かれたとき、これからは毎日が日曜日と喜ばれました。この調査の報告書作成でも、原稿をまず最初に書き上げて下さり、わたくしどもの先頭に立つて下さいました。

二冊の報告書は、各国から高い評価を得ました。先生は、さらに実地に保存修理を提唱され、持前の実行力で諸方面に働きかけて下さいました。ユネスコの顧問セクレタリ博士（ハーバード大教授）も報告書の成果を保存に生かすよう伝えてくるなど、国内外の環境も整い、解体調査・復原の研究は、実施の段階にまで達しています。日本の研究として世界に認められることになったのです。

建築史という地道な学問分野にあって、先生は世の一般に最も知られた存在であられ

前も、文化庁の文化財専門調査会を会長として進められたとのことです。まさに、最後まで保存に尽くされたのです。研究業績をいうことで止まらず、多くの人材を育てられた温かい人柄をどうしても書き留めたいと思います。本学の研究室でも、学会賞を得られてますます活躍される西和夫先生（現神奈川大）をはじめ、波多野・黒津・私などがお教えを賜わり、その心意気に触れることができました。私も、先生のいわば遺産を未永く生かし続けようと思ふのです。

こうして先生を偲んでいまして、たまたま手が止ってしまっています。心いつまでも残る人の存在を、今回はじめて思い知った次第です。

藤岡先生著作目録（抄）

アンコール遺跡	昭和18年6月	三省堂
城―その美と構成― （カラーブック）	昭和39年5月	保育社
桂離宮 （美術文化シリーズ）	昭和40年2月	中央公論美術出版
姫路城 （美術文化シリーズ）	昭和40年10月	中央公論美術出版
Japanese Castles（英文） （カラーブック）	昭和43年	保育社
城と書院 （原色日本の美術12）	昭和43年3月	小学館
近世建築史論集	昭和44年9月	中央公論美術出版
書院Ⅰ・Ⅱ	昭和44年9月	創元社
アンコール・ワット	昭和45年11月	毎日新聞社
近世の建築（芸術選書）	昭和47年4月	中央公論美術出版
Angkor Wat	昭和47年	講談社インタナショナル
角屋	昭和48年11月	毎日新聞社
京都御所と仙洞御所 （日本の美術）	昭和49年8月	至文堂
熊本城 （美術文化シリーズ）	昭和51年4月	中央公論美術出版
日本の城（改定増補版）	昭和55年4月	至文堂
写真集 姫路城 （写真・北村泰生）	昭和57年8月	神戸新聞出版センター
Japanese Residences and Gardens	昭和57年	講談社インタナショナル
Kyoto Country Retreats	昭和60年	講談社インタナショナル
心にくる建築	昭和60年3月	中央公論美術出版
京都御所（新訂）	昭和62年9月	中央公論美術出版
城と城下町（増補改定）	昭和63年5月	中央公論美術出版

教育研究装置

の紹介

（一面より続く）

情報処理教育支援システム

最近の工業教育でのコンピュータの利用は、プログラミング言語の教育だけでなく工業教育支援システム（CAI）という形で、設計・製図、電気実験や電気回路などあらゆる分野でさかんに利用されています。

本学でも昭和五十年より情報処理教育を目的とした演習を行ってきたが、こうした急増する利用要求を満足するには、従来からある「メインフレーム+TSS端末」という教育システムより図形処理や

日本語入力力が容易なパーソナル・コンピュータを利用することが適切であると考えていた。

しかし、ただパソコンを並べただけのシステムでは十分ではなく、教員と多数の学生との間で、敏速で豊富な情報のやりとりが可能なパソコン間のネットワーク化が必要であり、その上に視覚情報と融合させた授業支援機能の実現が待たれていた。今回の情報処理教育支援システムは、こうした要求のもとに情報技術センターに導入されたものである。



単一の技術のみでは不十分であり、複合化された高度の評価技術が必要となってきた。そのなかでも光電画像素子の開発および光電画像の評価が研究上のキー技術となっている。

光電画像素子

評価装置

OA機器の中で重要な位置を占めることも、我々にとって最も身近な機器は光電画像機器、いわゆる複写機である。この複写機は半導体デバイス（縮小化、発展化）ともない機能の複合化が進んでいる。そのため、各エレメントの開発研究および各機能評価研究を行うにあたっては、単なる

粒子に関する研究とシステム評価を研究課題としているが、これらの研究課題を遂行してゆく上で、学内に基本的な光電画像素子評価装置の整備が不可欠であった。こうした背景のもとにこの

人事異動

四月一日付

任用

▽電気電子工学科 教授
原田達哉(はらだ・たつや)



大正十三年十月五日生。昭和二十二年九月、東京工業大学電気工学科卒業、二十七年九月東京工業大学研究科退学。四国電力電力中央研究所を経て、佐賀大学理工学部電気工学科教授。工学博士(東京工業大学)。電気学会論文賞、電気学会進歩賞、電気学会電力賞等受賞。



大正十三年一月二日生。昭和二十二年九月、慶応義塾大学工学部電気工学科卒業。前慶応義塾大学工学部教授。工学博士(慶応義塾大学)。電気学会論文賞受賞。



昭和九年十一月十五日生。昭和三十三年三月、慶応義塾大学工学部電気工学科卒業。

自然科学研究科博士課程物質科学専攻単位取得退学。
▽総務部庶務課
太田 智(おおた・さとる)



昭和四十二年一月十八日生。▽総務部経理課
黒須峰子(くろす・みねこ)

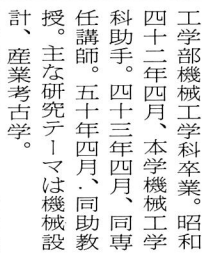


昇任

▽機械工学科 教授
鈴木昭(すずき・あきら)



大正十五年八月二十一日生。昭和二十四年三月、慶応義塾大学工学部電気工学科卒業。日本放送協会総合技術研究所主任研究員を経て名古屋工業大学工学部教授。工学博士(東北大)。電気通信学会稲田賞、テレビジョン学会技術振興賞、著述賞等受賞。



昭和六年一月二十七日生。昭和三十一年三月、日本大学工学部機械工学科卒業。昭和四十二年四月、本学機械工学科助手。四十三年四月、同専任講師。五十年四月、同助教。主な研究テーマは機械設計、産業考古学。

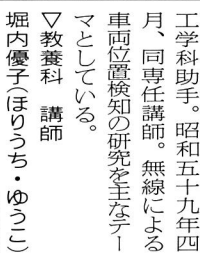


昭和二十二年八月十七日生。昭和四十四年三月、東京工業大学工業教員養成所卒業。昭和四十四年四月、本学電気工学科助手。五十五年十月、電気実験センター専任講師。マインコン技術教育についての研究を進めている。

▽電気電子工学科 助教授
日下部 浩(ひかくべ・たかし)

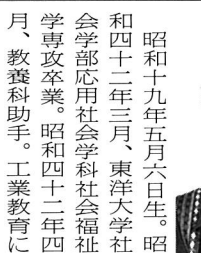


昭和二十一年六月十八日生。昭和四十五年、電気通信大学電気通信学部通信工学科卒業。昭和四十五年四月、本学電気工学科助手。昭和五十九年四月、同専任講師。無線による車両位置検知の研究を主なテーマとしている。



退職

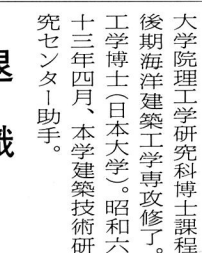
三月三十一日付
▽土井正志 教養科教授(定年)



昭和二十五年四月三十日生。昭和五十九年三月、日本大学大学院理工学研究科博士課程後期海洋建築工学専攻修了。工学博士(日本大学)。昭和六十二年四月、本学建築技術研究センター助手。



昭和二十五年四月三十日生。昭和五十九年三月、日本大学大学院理工学研究科博士課程後期海洋建築工学専攻修了。工学博士(日本大学)。昭和六十二年四月、本学建築技術研究センター助手。



昭和二十五年四月三十日生。昭和五十九年三月、日本大学大学院理工学研究科博士課程後期海洋建築工学専攻修了。工学博士(日本大学)。昭和六十二年四月、本学建築技術研究センター助手。

任命

四月一日付

▽土井誠 システム工学科講師
▽工業技術博物館長(兼任)
鈴木昭教授(すずき・あきら)

▽工業教育研究所長
関口修教授(せきぐち・おさむ)
▽保健体育センター長(兼任)
小林勉教授(こばやし・つとむ)
▽機械工作センター長(兼任)
長田重慶教授(ながた・しげよし)
▽電気実験研究センター長(兼任)
大久保勝弘教授(おおくぼ・かつひろ)

▽情報技術センター長
渡部徹教授(わたなべ・あきら)
▽材料試験研究センター長(兼任)
岩瀬勝教授(いわせ・まさる)

▽情報技術センター長
渡部徹教授(わたなべ・あきら)
▽材料試験研究センター長(兼任)
岩瀬勝教授(いわせ・まさる)

▽情報技術センター長
渡部徹教授(わたなべ・あきら)
▽材料試験研究センター長(兼任)
岩瀬勝教授(いわせ・まさる)

数学・物理学は工学技術の基礎?

町山忠弘

「数学・物理学は工学技術の基礎である」と云われる。数学・物理学が弱い諸兄には耳の痛いことである。この「基礎」と云われるイメージが、多く数学と物理学と云う親亀の上に、子亀よろしく工学技術がのっている風を抱かれてしまふ。親亀コケたら皆コケたと云う具合に、数学・物理学が弱ければ工学技術の学習は成立しないという考え方が多い。大学受験で、工学部は、数学・物理学を重視することから、受験生に対する学習のすめとして有意であるが、工学技術の曲解を生んでしまふ。同様に「応用」と云う言葉も困ったもので、応用数学、

▽建築技術研究センター長(兼任)
北後寿教授(ほくご・ひさし)
▽超高圧放電研究センター長
原田達哉教授(はらだ・たつや)

松木正勝教授
通産省より表彰



松木正勝本学機械工学科教授が、昭和六十三年十一月二十九日に通産省産業技術院より、ムーンライト計画推進功労者として表彰を受けた。その成果である高効率ガスタービン、本学工業技術博物館に展示保存されている。

海外研修



授業風景

第6回 日本工業大学カナダ特別英語研修

期 間	平成元年8月1日～27日	〈27日間〉
費 用	537,000円(25名の場合)	
研 修 先	ブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)の語学研究所(カナダ・バンクーバー市)	
プ ロ グ ラ ム	月～金曜日 午前中3時間教室で授業、午後は週1回フィールドトリップがある。	
カ リ キ ュ ラ ム	①聞いて理解する力 ②単語と熟語 ③英会話 ④バンクーバー市内での英語の実践的な活用	
宿 舎	ホームステイ(バンクーバー市在住のカナダ人の家庭に滞在し、その家族の一員として生活する。)	
そ の 他	UBCでの語学研修修了後、アメリカのロサンゼルスへ渡り、レドンドビーチやディズニelandを観光するとともに研修成果を実践する。カナディアン・ロッキーへのオプション・ツアーも用意されている。	
窓 口	教務課	

第17回 日本工業大学
ヨーロッパ研修

期 間	平成元年8月26日～9月12日	〈18日間〉
費 用	548,000円	
行 き 先	ロンドン→バルセロナ→ローマ→ウィーン→ミュンヘン→フッセン→イントラーケン→ジュネーブ→パリ	
窓 口	学生課	



サンマルコ広場にて